



PRESS RELEASE

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

<Tokyo 2020.NEWS-2019-144>

2019年6月4日

東京2020パラリンピック競技大会陸上競技用備品（こん棒）を
都立工芸高校定時制課程の生徒が製作

東京2020組織委員会は、東京都教育委員会と連携し、オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として、パラスポーツへのさらなる理解促進を目的に、陸上競技こん棒投の競技用備品（こん棒）の製作を共同で行うこととし、本日、協定を締結しました。この協定に基づき、都立工芸高校定時制課程の生徒にこん棒の製作を依頼することとなりましたので、お知らせします。

こん棒の調達に当たっては、国内に製作を行うメーカーがなく、調達先が極めて限定されていることから、この機会をオリンピック・パラリンピック教育推進に活用することとしました。都立工芸高校は、過去にパラリンピック競技でもあるボッチャの競技用備品（ランプ）を製作した実績がある、工芸・デザイン系の製作技術を学ぶ高校です。

スケジュールは以下のとおり、今年7月から製作を開始、東京2020テストイベントで使用した後、東京2020パラリンピック競技大会本番で使用する予定です。

【こん棒製作本数】

20本

【今後のスケジュール（予定）】

- 2019年6月4日 : 東京都教育委員会との協定締結
- 2019年7月 : 製作開始
- 2020年3月 : 製作物完成、組織委員会へ納品
- 2020年5月 : 東京2020テストイベントでの使用
- 2020年8月～9月 : 東京2020パラリンピック競技大会での使用

Worldwide Paralympic Partners									
Atos		BRIDGESTONE		Panasonic		TOYOTA		VISA	
Tokyo 2020 Paralympic Gold Partners									
Alibaba Group	Coca-Cola	OMEGA	P&G	Asahi	asics	Canon	ENEOS	東京海上日動	日本生命
NEC	NTT	NOMURA	FUJITSU	MIZUHO	SMBC 三井住友銀行	三井不動産 MITSUI FUDOSAN	meiji	LIXIL	
TOKYO 2020									

■ 室伏 広治 東京 2020 組織委員会スポーツディレクターコメント

東京 2020 パラリンピック競技大会本番で選手が使う競技用備品を都立高校の生徒に製作していただくこととなり、大変嬉しく思います。生徒の皆さんにとっても、選手の皆さんにとっても、心に残る貴重な経験になるのではないかと思います。生徒たちの思いが込められたこん棒を使い、真剣勝負が行われることを楽しみにしています。選手にとって最高の競技環境を整えられるよう、引き続き関係団体と連携し、大会の準備に尽力してまいります。

《「こん棒投」に関する情報》

【「こん棒投」とは】

「こん棒投 (Club Throw)」は、車いすクラスの中でも障がい重度であり、手にも障がいのある選手を対象とし、ボウリングのピンに似た長さ約 40 センチメートル、重さ 397 グラムのこん棒を投げ、距離を競う。投げ方に制限はなく、後ろ向きに投げることも認められている。



こん棒



こん棒投の様子（提供 日本パラ陸上競技連盟）

【東京 2020 パラリンピック競技大会実施種目】

- ・ こん棒投 F32 (男子/女子)
- ・ こん棒投 F51 (男子/女子)

【世界パラ陸上競技連盟 (WPA) 陸上競技規則 及び 規定 2018-2019 (2018 年 1 月発効)】

※以下、日本パラ陸上競技連盟ウェブサイトから抜粋

(<https://jaafd.org/pdf/committee2/20190110-001.pdf>)

第 37 条 こん棒投

＜競技会＞

1. こん棒は首部と先端部またはそのいずれかで片手だけを使って支えるものとする。こん棒は着地エリアの方向を向いて投げて、後ろ向きの姿勢から頭上越えて投げてよい。

＜こん棒＞

2. 構造：こん棒は、先端部（ヘッド）、首部（ネック）、胴体部（ボディ）、底部（エンド）の 4 つの部分からなるものとする。先端部、首部、胴体部は木製で、全体として固定され、一体化した頑丈なものでなければならない。胴体部は、金属製で刻み目や突起や鋭い縁のない円筒状の底部に固定されていなければならない。
3. 先端部、首部、胴体部の表面は、くぼみ、でこぼこ、溝、畝、穴、ざらつきがなく、滑らかなものでなければならない。
4. 先端部は球状または円筒状で、首部に向けてすぐに細くなる形状でなければならない。胴体部は、一番太い部分の直径が 60mm 以下でなければならない。形状は円筒状でもよい。こん棒は、首部に向けて均等に細くなり、金属製底部に向けて少しだけ細くなるものとする。